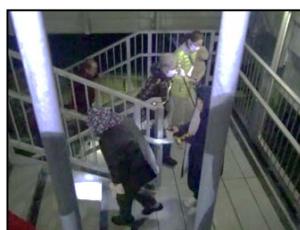


平成28年度内閣府 地震・津波防災訓練 【高知県黒潮町】

実施報告書
(概要版)



高知県黒潮町について

黒潮町(くろしおちょう)は、平成18年に高知県幡多郡「大方町(おおがたちょう)」「佐賀町(さがちょう)」が合併し、誕生しました。高知県の中でも西南に位置し、人口は約11,700人、総面積は約188km²です。

南国特有の温暖な気候を活かして、大方地域では施設園芸や花卉、水稻を中心に栽培が行われ農業が盛んです。また、佐賀地域ではカツオ一本釣り漁業や、近年は完全天日塩も代表的な特産物となっています。

このような黒潮町も、南海トラフ巨大地震の際は、最大津波高が全国で最も高い34mと想定されており、『あきらめない。揺れたら逃げる。より速く、より安全なところへ。』を全町民が共有する合言葉に、犠牲者ゼロを目指した取り組みを進めています。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：11月5日午後7時に、南海トラフを震源とするM9.1の巨大地震が発生、黒潮町では最大で震度7の揺れを記録、地震発生直後より大津波警報が発表され、南部沿岸地域では15分後に15m以上の津波の到達が予想されることから、町は、ただちに災害対策本部を設置するとともに、防災行政無線等により町内全域に避難を呼びかけた。

■実施日時：平成28年11月5日（土）13:00～20:00

地区防災計画シンポジウム

13:00～17:40

地震・津波避難訓練

19:00～20:00

シェイクアウト訓練

夜間津波避難訓練

情報伝達訓練

避難所開設訓練

安否確認訓練

■主催：内閣府、黒潮町、黒潮町自主防災会（後援：高知県）

■参加者数：4,038名

■参加機関：警察、消防、消防団等

当日の訓練内容

13:00～17:40 地区防災計画シンポジウム

自主防災会、学校等からの津波対策に関する実践報告や「世界津波の日と地域の実践をつなぐ」をテーマに有識者を招いたパネルディスカッションが行われ、積極的な意見交換がなされた。

▼地区防災計画シンポジウム



19:00～19:03 シェイクアウト訓練

告知端末や防災行政無線による「緊急地震速報」の放送の後、自らの命は自ら守るという「自助」の取り組みに重点を置いたシェイクアウト訓練が行われた。

▼シェイクアウト訓練



19:03～ 夜間津波避難訓練・避難所開設訓練

津波浸水40地区の町民は、速やかに地区防災計画で示された避難場所、津波避難タワーへ、懐中電灯の明かりを頼りに避難訓練が行われた。

また、浸水地域以外の21地区の町民は、浸水地区の避難町民を受け入れるべく、避難所開設訓練として、受け入れ準備が行われた。

▼津波避難訓練



▼避難所開設訓練



19:00～ 情報伝達・安否確認訓練

各避難場所、津波避難タワー、避難所から、町の災害対策本部に衛星携帯電話、消防無線等により、20:06にすべての避難が完了した報告がなされ、今回の訓練参加者4,038名の町民が無事に避難したことを確認した。

▼情報伝達・安否確認訓練



▼町災害対策本部



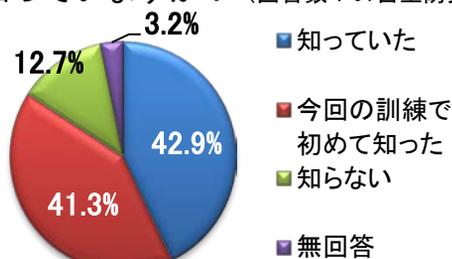
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：61自主防災会（浸水地域40自主防災会））

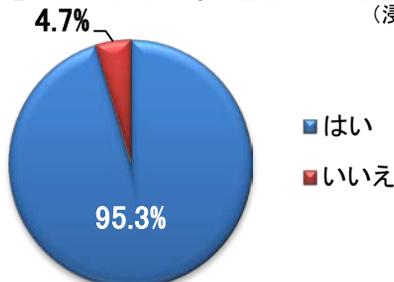
問 地震・津波防災訓練に参加してどう
思いましたか？（回答数：61自主防災会）



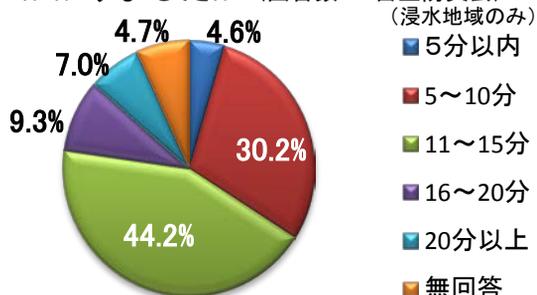
問 11月5日が「津波防災の日」であることを
知っていますか？（回答数：61自主防災会）



問 地震が来たら、まず高いところへ逃げ
ようと思いましたか。（回答数：40自主防災会）
（浸水地域のみ）



問 地震発生から避難まで何分くらい
かかりましたか（回答数：40自主防災会）
（浸水地域のみ）



訓練の評価

初めての全町挙げて夜間の津波避難訓練実施にも関わらず、毎年実施している昼間での訓練で過去最も多く参加した約4,400名に迫る4,038名の参加があり、町民の訓練の重要性の理解と、防災意識の高さが分かる。これは、これまで行政と町民が官民共同で進めてきた防災対策の効果の表れと言える。

訓練終了時の黒潮町長の訓示や地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう整理した。

この結果、「防災訓練に参加してよかった」、「昼間避難との違いを認識できた」、「夜間避難のために準備しておくべきことが分かった」という評価の一方で、次のような課題があることが認識された。

- 今回は初めての夜間訓練であることから、安全を重視して避難計画に指定されている避難場所と異なる訓練用に示された避難場所に避難した。今後は、計画に示された避難場所へ昼夜間を問わず、安全に避難できるように訓練を重ねることが重要である。
- 昼間では気にならない避難経路の溝や小さな段差が、夜間では避難の支障になる。夜間避難を想定し、避難経路上の避難に支障となる箇所については事前に調査し、避難路マップ等に表記しておく必要がある。